

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	715T	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：715T

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4 インチ

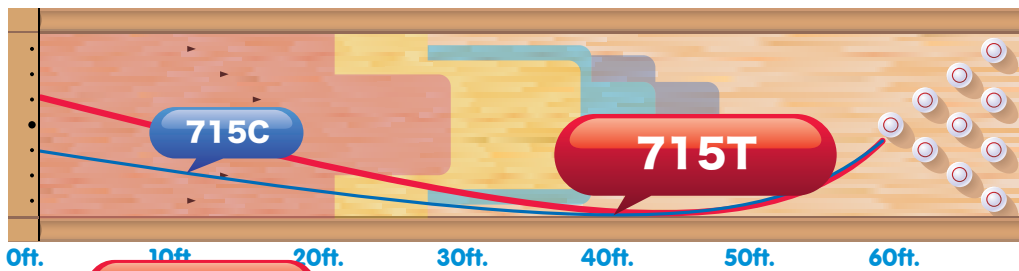
比較対照ボール：715C

フレアーの幅 インチ

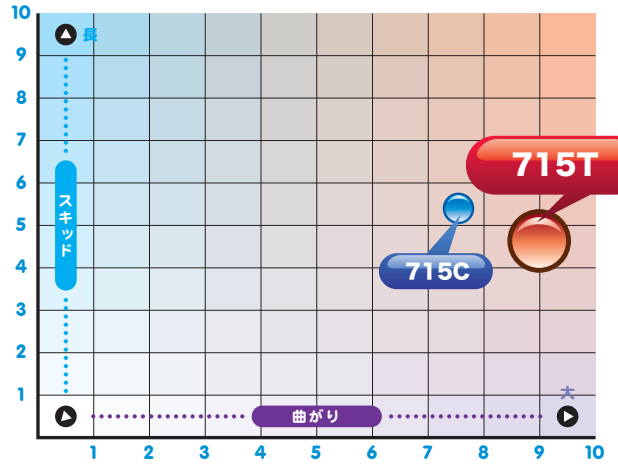
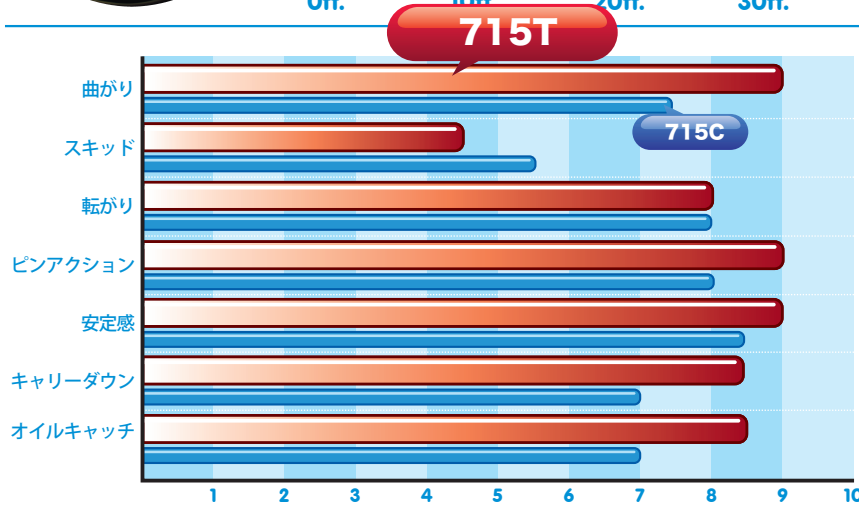
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

トラック社715Tは、7シリーズで最初の「T」(Traction)性能のボールです。すでに715A、715Cと発売されていますが、505T同様、「7」で使用できる領域の限界数値のカバーストックを算出。人気がある505Tのより強いバージョンであるように仕上げています。トラック社ケミカル開発者はこの715Tに見合う性能を引き出す為に、全く新しい「UMP GEN4T」カバーストックを用いてより積極的な製品を製造しようと試みました。今までの7シリーズ同様「Catback」コア、Intermediate Differential 0.015、表面加工を500/1000/2000 Abralonの3段階で仕上げることでより均一に、そして安定したパフォーマンスが保てるよう作り上げています。テスト時に今回比較対象の715Cと505T、920Tと投げ比べましたが、性能分布から分類すると、スキッド感は505Tよりも920Tに近いのですが、バックエンドリアクションは2つのボールよりもアグレッシブさを感じることができます。「T」のミッドエリアでのトラクションはしっかり効いていながらバックエンドでアグレッシブな動きを感じられるのは、「7」のキャッチ力を確保しながらパワーロスせずにバックエンドまでパワーを供給できていることであり、転がりの良さ及びピンヒットの柔らかさを含め、類稀なる性能であると投球者である貴方は感じることでしょう。

キャッチ感とバックエンドモーションの強さ。この性能はオイルが多いコンディションで武器になるボールであり、プロトーナメントにおいても優勝争いを演じる、トラック社ナンバーシリーズの伝説の一つに加わるものとなるでしょう。

特記事項

オイルに対しての安定感と「T」の性能分布でありながらアグレッシブなバックエンドリアクションを得られるボール。単刀直入に曲がりか欲しいタイプにはこのボールは欠かせません。